

## 卒業論文要旨

大型製材所が高知県の林業に及ぼす影響に関する予備的研究

1150244 中川大輔

A feasibility study on the effects of large sawmill  
on the forestry in Kochi Prefecture

Daisuke Nakagawa

森林は木材等の物質生産機能だけでなく、災害防止、環境保全等多面的機能を有しており、我が国及び高知県にとって重要な資源である。我が国では、戦後植林された木材が利用期を迎えているにもかかわらず、木材価格の下落・低迷による林業従事者の減少のため、森林資源を十分利用できず、森林の多面的機能の維持が困難になっている。本研究では、高知県により誘致された大型製材所「高知おおとよ製材」（平成 25 年 8 月稼働）を例として、大型製材所が高知県の森林・林業に及ぼす影響について明らかにするために、定量的な検討を行う前に必要な論点を整理した。基礎資料として、林業白書や論文等の公開資料を用いると共に、高知おおとよ製材及び高知県庁において聞き取り調査を行った。高知県の森林の年間成長量 300 万 m<sup>3</sup>、木材生産量 50 万 m<sup>3</sup> に対する、平成 27 年度以降の高知おおとよ製材の木材消費量 10 万 m<sup>3</sup> が、森林経営の安定的な発展と森林の多面的機能の維持につながる好循環をもたらすことが重要であること、その具体的な条件について整理した。